

学生対象の講読会です

丸山眞男記念比較思想研究センター主催 講読会

# 丸山眞男を知ろう！

東京女子大学図書館には、丸山眞男文庫があります。

これは、庄司薫『赤頭巾ちゃん気をつけて』（1969年度芥川賞受賞）で、「自由」で「しなやか」で「のびやか」で「豊か」な知性の持ち主として登場する、故丸山眞男東京大学名誉教授の蔵書・原稿類を収めたものです。

この丸山眞男さんについて、一緒に学んでみませんか。

丸山眞男氏主要著作

『現代政治の思想と行動』増補版（未来社、1964年）

『日本政治思想史研究』（東京大学出版会、1983年）

『日本の思想』（岩波書店、1961年） ほか多数

申込不要  
直接会場へ

講師：茂木敬夫（地域文化学科助教授）

黒沢文貴（地域文化学科教授、丸山眞男記念比較思想研究センター長） ほか

日程：全10回開催予定

|       | 日 時                      | 会 場    |
|-------|--------------------------|--------|
| 第 1 回 | 2004年9月28日（火）16:30-18:00 | 9101教室 |
| 第 2 回 | 2004年9月30日（木）16:30-18:00 | 7210教室 |
| 第3回以降 | 毎週水曜日 13:15-14:45 の予定    | 9105教室 |

問い合わせ：地域文化学科・黒沢（8号館6階） または 教育研究支援課（1号館1階）まで

# 丸山眞男を知ろう！

1969年といえば、35年前ですが、その年の第61回芥川賞受賞作品に、庄司薫さんの『赤頭巾ちゃん気をつけて』（中央公論社、中公文庫版、1973年）という、当時の若者の生態を描いた、機智とユーモアにあふれた小説があります。

そのなかで主人公の高校生薫は、東大法学部に通う「特に好きな下の兄貴」から二冊の本を借ります。その一冊が「ガリ版ずりの思想史の講義プリント」で、「これには相当にまいってしまって夢中で読ん」でしまいます。その直後、下の兄貴と銀座を歩いていた薫は偶然、「そのすごい思想史の講義をしている教授に偶然お会いし」、話をする機会に恵まれます。そしてかれは、つぎのようなことを感じます。

たとえば知性というものは、すごく自由でしなやかで、どこまでもどこまでものびやかに豊かに広がっていくもので、そしてとんだりはねたりふざけたり突進したり立ちどまったり、でも結局はなにか大きな大きなやさしさみたいなもの、そしてそのやさしさを支える限りない強さみたいなものを目指していくものじゃないか、といったことを漠然と感じたり考えたりしていたのだけれど、その夜ぼくたちを（というよりもちろん兄貴を）相手に、「ほんとうにこうやってダベっているのは楽しいですね。」なんて言っていつまでも楽しそうに話し続けられるその素晴らしい先生を見ながら、ぼくは（すごく生意気みたいだが）ぼくのその考え方が正しいのだということを、なんていうかそれこそ目の前が明るくなるような思いで感じとったのだ。そして、それと同時にぼくがしみじみと感じたのは、知性というものは、ただ自分だけではなく他の人たちをも自由にのびやかに豊かにするものだというようなことだった。つまりその先生と話していると、このぼくまでがそのちっちゃな精神の翼みたいなのをぼくなり一生懸命拵げてとびまわり出すような、そんな生き生きとした歓びがあったんだ。

この「自由」で「しなやか」で「のびやか」で「豊か」な知性の持ち主が、丸山眞男東京大学名誉教授です。その逝去後、所蔵されていた蔵書や手書き原稿類などが本学に寄贈され、図書館地下にある丸山眞男文庫となっています。日本学士院会員で日本政治思想史の大先生という、なにかいかめしい感じがしますが、「自由」で「しなやか」で「のびやか」で「豊か」な知性の持ち主、丸山眞男さんについて、そしてその学問について、みんな探求していきませんか。

講読会では、現代文化学部地域文化学科の茂木敏夫先生や黒沢文貴丸山眞男記念比較思想研究センター長などを中心にして、ビデオをみたり、丸山眞男先生の著作物を読んだりする予定です。さー、どんどんいらしてください。一緒に丸山眞男について知りましょう。